

令和6年第2回明和町議会定例会一般質問事項

6月6日

4 3番 三浦 次弘 議員

1. 視覚障がい者のための音声コードの利用促進について

視覚障がいのある方は必ずしも点字を読めるわけではなく、多くの方は主に音声や拡大文字によって情報を得ているようだが、この関連について問う。

- (1) 本町の視覚障がいのある方の音声コードの利用状況は。
- (2) 町内の視覚障がいのある方に対して、町はどのように情報を発信しているのか。
- (3) 町民に送付される公的な通知について、この音声コードの普及を進められないか。

2. 町内公共施設のAEDについて

AEDとは、心臓が痙攣し血液を流すポンプ機能を失った状態になった心臓に対して、電気ショックを与え正常なリズムに戻すための医療機器である。電気ショックの成功率は、心停止になってから除細動を開始するまでの時間が1分経過するごとに約7%~10%低下するといわれている。

- (1) 町内公共施設のAEDの設置場所と台数は。
- (2) 町の公共施設に設置してあるAEDの使用事例は。
- (3) AEDを設置してある公共施設の職員は、AEDを操作できるように研修されているのか。
- (4) こども園・東西小学校・中学校は大勢の園児・生徒がいるため、複数台の設置はできないか。
- (5) 傷病者が女性の場合のプライバシーを考慮して、町内公共施設のAEDに三角巾を配備できないか。

3. 難聴者の対応について

日本補聴器工業会によると、日本の難聴者は人口の10%、約1,300万人に上り、高齢化に伴い今後さらに増えると見込まれている。また補聴器所有率が難聴者のわずか15.2%しかないことが分かっている。

- (1) 役場の窓口で難聴者にどのように対応しているか。
- (2) 役場で個人情報も含む内容が周囲のお客様にも聞こえている例があるが、どう考えているか。
- (3) 高齢化が進む中、窓口業務の時間短縮・難聴者のプライバシーの保護につながる軟骨伝導イヤホンを役場窓口に導入してはいかがか。

5 7番 眞塩 香奈子 議員

1. ごみ減量化推進と環境モラルについて

現在、地球環境時代といわれ、温暖化対策が進み始めている。国は2050年カーボンニュートラルを目指し、市町村にも同様の取り組みが求められている。行政だけでなく、町民・企業も相互に連携協力し合い、それぞれの立場で環境問題と向き合うため、質問する。

- (1) 3R推進の経緯と現状について
- (2) ごみステーションの現状と課題について
- (3) 環境モラルの向上について
- (4) めいわゼロカーボンシティについて